

シビック・イノベーション拠点スナバとは

2018年8月にオープンした一般財団法人塩尻市振興公社が運営するシビック・イノベーション拠点。
「**生きたいまちを、共に創る**」をビジョンに、「**人を創る**」「**事業を創る**」「**場を創る**」をアクションにコワーキング・アクセラレーター・ラボの3つの機能を有し、**全ての人が自分がいききたい暮らしを実現するためのアクションを起こすムーブメント**を実践中。

コワーキング

事業が進むメンバー制の起業家コミュニティ

- 充実したシゴトバ
- 全国・世界につながるコミュニティ
- 事業が前に進むハンズオンでの伴走支援
- ミートアップや人と繋がれるイベント企画

アクセラレーター

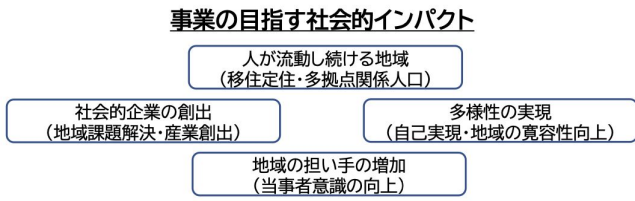
地域の未来をポジティブに変えていく伴走型プログラム

- 実践型起業家プログラム「SBB」
- 高校生起業家プログラム「エヌイチ道場」
- 地域型インパクト投資プログラム「DIVE」
- 企業向けコーポレートプログラム

ラボ

シビック・イノベーションの探究

- シビック・イノベーションの知識・事例の蓄積
- ツアープログラム（企画）
- シビック・イノベーションカンファレンス（企画）



目指す姿(ビジョン)
生きたいまちを、共に創る
実施領域(ミッション)
シビック・イノベーターが増える環境をつくる
手段(アクション)
人を創る、事業を創る、場を創る

移住・二拠点居住に関するこれまで

オープンして6年経過し、移住や定住や二拠点・他拠点のメンバーも多くを占める。また、産官学民の様々な主体との共創が進行中。国土交通省においても中間とりまとめに掲載。

→「**移住・定住・関係人口**」を**ダイレクトな目的に置かない中で、成果が上がっているのは何故か！？**

	2018年度末	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末	2023年度末	2024年度 事中評価
現役メンバー数	22	44	62	85	114	134	145
のベメンバー数	26	63	109	180	218	281	309
新規事業数 (のベ)	3	9	19	28	33	37	38
移住者数 (のベ)	5	10	19	38	57	64	71

国土交通省

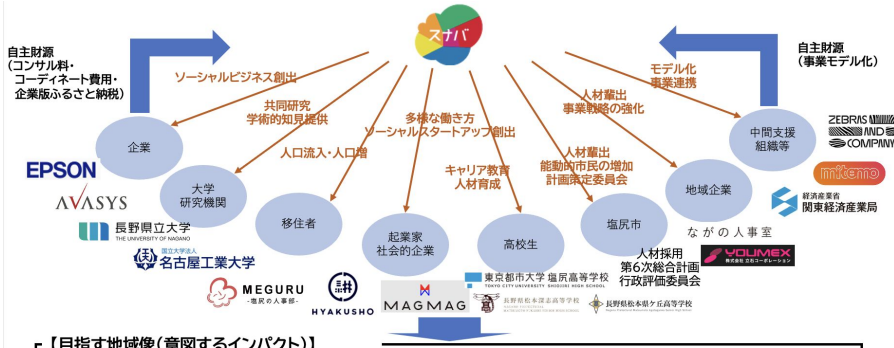
4. 課題 なりわい(仕事)の確保・新しい働き方①



- (1) 場所にしばられない働き方(転勤なき移住)への対応
- 「転勤なき移住」等の多様なライフスタイルの受け皿となるためには、テレワーク環境やコワーキングスペース等の働く場や交流機会の確保が必要。コワーキングスペース等を整備する際には、適切に利用がなされるよう、潜在的なニーズの把握、既存施設の活用、飲食店等の柔軟な活用なども考慮することが必要。
 - 子育てをしながら仕事ができるように、コワーキングスペース等には子どもを預けられるなど、生活環境に配慮した機能も必要。また、コワーキングスペース等は適切に活用することにより地域の交流機会や、新たなビジネス機会の創出に繋がるため、運営のためのコーディネーターとなる人材の育成・確保も重要。

<コワーキングスペースの整備・運営による新規事業創出支援(長野県塩尻市「スナビ」)>

長野県塩尻市では、シビックイノベーション拠点「スナビ」を市が運営。全国の社会・地域課題を解決する社会的効果や持続可能性のある事業がスナビで実現して生み出されることを目指す。デスクワークやミーティングスペースなどの一般的なコワーキング施設の機能のほか、ビジネスモデルを会場内で磨き合うプログラムなど、新規事業の創出につながる機能も提供。企業、起業家、大学、生活者、行政のすべてを「市民」とし、持続可能性と社会的効果を両立する事業や、新しい仕組みを共創し、シビックイノベーションを育成することをコンセプトとしている。



移住・二拠点居住等促進専門委員会 中間取りまとめ

二地域居住や移住等の促進への取組を支援します！

～地方公共団体と連携した先導的な二地域居住や移住等の促進への取組を採択しました～

令和6年度「移住等の促進に向けた実証調査」において、二地域居住や移住等の取組の更なる促進のため、地方公共団体と連携して二地域居住や移住等の促進に取り組む NPO 法人、民間事業者等が実施する先導的な取組6件を採択しました。

長野県塩尻市	多手株式会社	塩尻市は、人口減少と高齢化が進み、地域の担い手不足が課題である。そのような中、シビックイノベーション拠点「スナビ」を通じた取組が二拠点生活や移住者の増加の成功事例となっていることから、スナビにおいて居住場所に関する相談窓口の設置、コミュニティに入るためのオンラインプログラムなど、地域で就業したいと考える移住者や、コミュニティの積極的参加と二拠点ワークアップの推進に取り組む。二拠点・移住者の増加に寄与する要因を明らかにするとともに、その要因が二拠点・移住者とコミュニティに影響を分析し、取組と当事者間での内生的変化を体系化する。
--------	--------	---

- 【目指す地域像(意図するインパクト)】
- 人が流動し続ける地域
 - ・移住/定住人口の増加(約60名)
 - ・若い世代のUターン
 - ・地域に貢献する関係人口の増加
 - 社会的企業/起業創業の最先端地域
 - ・事業を通じた社会・地域課題解決
 - ・新規産業と雇用の創出
 - ・地域における資金/投資循環の実現
 - 多様性(DE&I)が実現される地域
 - ・自己実現や社会的寛容度の強化
 - ・ジェンダーギャップの解消
 - ※現メンバーの4割程度が女性

移住等の促進に向けた実証調査への採択

移住・二拠点居住がなぜ進んでいるのか(個人的な仮説)

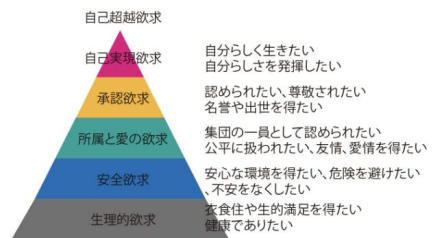
スナバが実現したインパクトの中に掲げる「**多様性の実現**」を言語化すると「**その人自身が、その人らしく居られる状態**」であること。スナバのカルチャーが「**自分らしく居られるコミュニティ**」を形成し「**自分らしいなりわい作り**」を可能とし、地域の様々なコミュニティが複層的に重なる中で「**自分らしい暮らし**」を選択しできるのではないか。そのような**地域が人や価値観の流動性を生み出す**のではないか。

外部環境的な移住理由(差別化困難)

- ・自然が良くて空気が綺麗
- ・涼しい・暖かい・気候がいい
- ・人があたたかい
- ・田舎に行きたい

自身の内的な移住理由(潜在的・差別化可能)

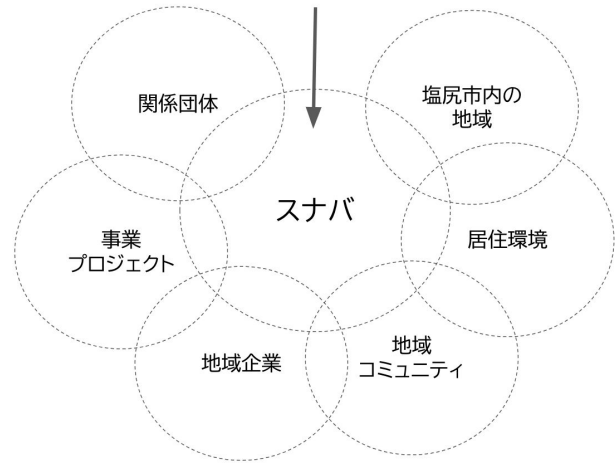
マズローの欲求5段階説



スナバのカルチャー (大切にしている価値観)

- いつも心にワクワクを
- GIVE & GET (価値と学びが行き交う)
- まず、やってみる
- 多様な人/価値観を認め合う
- オープンでフラットな関係性

スナバを介して地域との接点や移住をすることで地域の様々な人・こと・コミュニティを流動的に動くことができそれが多様な=自分らしい「住まい・なりわい・コミュニティ」を実現



人類学的なアプローチ含めて、ミテモと実証調査中！

長野県 塩尻市

シビック・イノベーション拠点スナバのコミュニティ・ゲートウェイ機能の体系化のための実証調査

調査の目的

- シビック・イノベーション拠点スナバの取り組みが移住・二地域居住者の高い定着率に寄与しているが、その成功要因は明らかにされていない。
- スナバの取り組みのどのような要素が移住・二地域居住者の増加に寄与しているかを明らかにするとともに、地域コミュニティ等の関係ステークホルダーに与える影響についても分析を行い、取り組みと当事者同士の内的な変化の体系化を行う。

調査概要

コミュニティ・ゲートウェイ実践に係わる影響を複数視点（二地域居住者、スナバ運営者、地域の受け入れコミュニティ等）から調査し、実践プロセスを体系化する。また、各調査結果を統合的な視点で解釈するワークショップを実施し、ゲートウェイの改善や地域コミュニティの受け入れ体制の検討といったネクストステップを創出する。

<コミュニティ・ゲートウェイ実践プロセス体系化>

● コミュニティ・ゲートウェイ実践過程調査

4つのコミュニティ・ゲートウェイ機能（スナバを通じた円滑な地域コミュニティ参画のための支援）を移住・二地域居住開始メンバー（今年度おためしナガノ参加者等）へ実施し、その実施過程を調査分析し、影響を理解する。

【スナバのコミュニティ・ゲートウェイ機能】

- ① 居住場所に関する相談窓口
- ② コミュニティに入るためのオンボーディング
- ③ 地域で実践・事業化したいことに対するコーディネート
- ④ コミュニティとの接続を目的としたイベント・ワークショップ



● ステークホルダーへのエスノグラフィック調査

二拠点居住開始メンバー、定着メンバー、運営、地域のキーパーソンに対してデプスインタビュー等の調査を行い、ゲートウェイを通じて地域コミュニティなどへどう接点を持ちステークホルダーへ影響したかを調査する。

<ネクストステップ創出>

● 統合ワークショップ

各種ステークホルダーに調査結果を共有し理解浸透を図るとともに、対話ワークショップを通じた活動創出機会をつくる。

期待する効果

スナバ・地域への効果：移住・二地域居住者の増加、移住・二地域居住者と地域とのミスマッチの防止
移住・二地域居住者への効果：地域コミュニティとの円滑な接点形成、地域でのなりわい創出
他地域への効果：コミュニティ・ゲートウェイ機能の他地域への展開、移住者受け入れ土壌の醸成